

日々の暮らし

ミッション

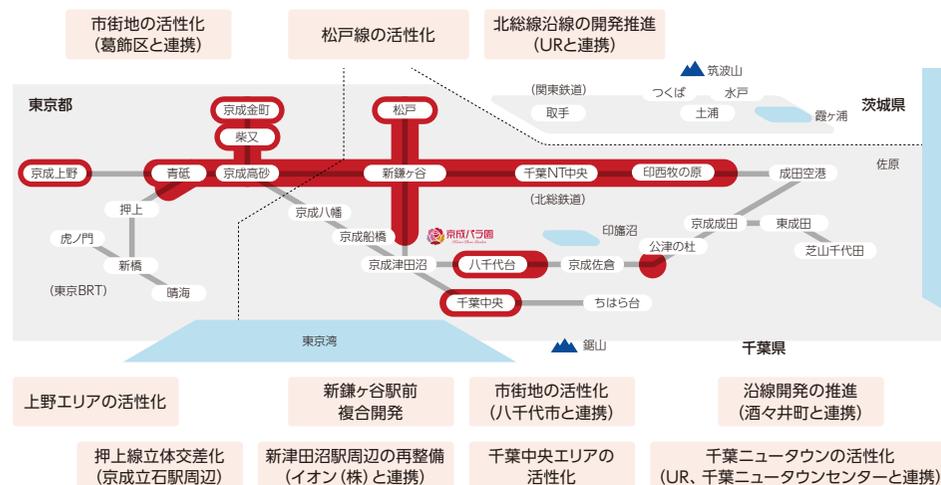
地域社会の発展を支える総合生活企業グループとして、自治体等と連携し、人と環境に優しい鉄道を軸に、地域の営みを支えるまちづくりを通じ、あらゆる世代にとって豊かで健康的な暮らしを創出する。

重点施策



具体的な取り組み

Ⅰ 活力が持続するまちづくりの推進



● 現時点でプロジェクト等の取り組みを進行中のエリア

京成グループは沿線地域の発展を支える総合生活企業グループとして、自治体や教育機関、企業との連携などを通して、地域の賑わい創出や持続可能なまちづくりに向けた取り組みを実施しています。

▶ 大規模な計画や開発案件等を軸とした事業エリアの活性化

新鎌ヶ谷駅前商業施設着工

当社は2024年4月、新鎌ヶ谷駅前における商業施設の新築工事に着工しました。これは、同駅前の県有地(約7,000㎡)について、千葉県企業局が駅周辺の賑わい創出に資する事業提案を募集した結果、当社を代表企業とする4社が事業者を選定され、当該用地を取得したものです。

本事業では、駅直結の複合商業施設(商業棟)と分譲マンション(住宅棟)の2棟を建設するとともに、駅の南北をつなぐ自由通路や東西通路、そして地域の賑わいを創出する2つの広場の整備を計画しています。商業施設には、駅周辺の昼間人口の増加を見据え、低層階に飲食店や物販店を、5・6階にはオフィスの誘致を計画しており、2026年度に開業する予定です。

新鎌ヶ谷駅は、当社・北総鉄道・東武鉄道の3社4路線が乗り入れる交通結節点です。京成グループでは、千葉県や鎌ヶ谷市と連携し、当社松戸線の連続立体交差化に加え、北総線の運賃値下げや一部スカイライナーの新鎌ヶ谷駅停車など、沿線活性化に取り組んでいます。

新鎌ヶ谷駅周辺市有地事業予定者に選定

当社を代表企業とする2社は、鎌ヶ谷市による「新鎌ヶ谷駅周辺地区市有地活用」に係る公募型プロポーザルに応募し、2025年2月、事業予定者に選定されました。

鎌ヶ谷市では、同駅周辺において、広域的な交通利便性を活かし、多様な機能が複合的に集積する、活気と魅力あふれる広域交流拠点の創出を目指しています。こうした中、当共同企業体は、オフィスを中心とした市有地活用を通じて、駅周辺の賑わいを創出し、昼間人口や就業者の増加に資する提案を行いました。

本提案に基づく2つの施設は、2028～2029年度に開業する予定です。



イメージパース
(左:オフィス 右:オフィス、一部飲食店)

日々の暮らし

京成線ダイヤ改正

当社では、2024年11月にダイヤ改正を実施しました。上り「スカイライナー」を1本増発するとともに、下り「スカイライナー」2本を青砥・新鎌ヶ谷停車に変更し、空港アクセスのさらなる利便性向上を図るほか、一部の列車の発着時刻や運転区間、種別等を変更しました。また、モーニングライナー及びビブニングライナーの特急料金について、均一料金から距離に応じた料金体系へ改定しました。



新京成線が京成電鉄松戸線として営業開始

2025年4月、当社と新京成電鉄との合併により新京成線は「京成電鉄松戸線」として新たにスタートしました。開業に先立ち、沿線の魅力を紹介する冊子「京成らいん特別号」を発行し、グループの駅や施設で配布しました。また、新津田沼駅で記念出発式を開催し、地域のみなさまと節目を祝いました。



▶ イオン(株)との連携を通じたより住みやすい快適な生活圏の創造

イオン(株)との資本業務提携

当社とイオン(株)は2024年10月、東京都・千葉県・茨城県を中心とした地域の生活者に向け、両社の持つ拠点価値を高めることで地域活性化に貢献することを目的とした資本業務提携契約を締結しました。

両社は、ともに千葉県に本社を置き、同じ地域の生活者に異なる社会インフラを提供してきた企業です。それぞれのアセットとノウハウを掛け合わせることで、地域特性に応じた街づくりを推進し、地域活性化に寄与できると考えています。



津田沼12番街ビル

具体的な取り組みとして、新津田沼駅周辺の再整備を通じた新たなランドマーク化を計画しています。新津田沼駅南側隣接地の「津田沼12番街ビル」を中心に周辺施設の改修・刷新を実施し、同駅北側に隣接するイオンモール津田沼と一体的に運営することで、施設価値の向上を図ります。これにより、新津田沼駅を中心とした回遊性の高い交流拠点を形成し、再生の象徴となるランドマークとして再整備を進めます。その他の箇所でも不動産情報の共有やイオングループによる出店を含めた街づくりを進め、京成グループの不動産業を強化していきます。

また、不動産業以外でも流通業での協業によるサービス拡充を検討しているほか、運輸業においても京成タクシーセントラルがイオングループの広告ラッピング車両を運行しました。さらに2025年8月には、千葉県下の京成グループのタクシー車両約950両と筑波観光鉄道が運営する売店などでコード決済サービス「AEON Pay (イオンペイ)」を導入しました。

▶ 事業エリアのみなさまとの連携による賑わい創出や社会課題の解決

精神障がい者割引制度の導入及び身体障がい者・知的障がい者割引制度の適用範囲拡大

当社及び新京成電鉄、北総鉄道では、2024年6月より、精神障がい者割引制度を導入するとともに、身体障がい者・知的障がい者割引制度の適用範囲を拡大しました。

精神障がい者割引制度は、各自治体で発行する精神障害者保健福祉手帳をお持ちのお客様が対象で、第1種または、第2種の精神障害者保健福祉手帳をお持ちのお客様がお一人でご利用される場合、普通乗車券(きっぷ・ICカード)、回数乗車券、定期乗車券(小児定期乗車券を除く)が5割引となります。

日々の暮らし

北総鉄道、UR都市機構、千葉ニュータウンセンターの三者連携

千葉ニュータウンは、まちびらきから40年を迎え、街の成熟とともに、立地特性を活かした多様な地域企業やプレイヤー（以下「地域関係者」）の活躍が広がり始めています。こうした中、北総鉄道、UR都市機構、千葉ニュータウンセンターの三者は、まちびらき当初から地域に関わり、住宅・鉄道・商業施設といった暮らしに直結するインフラを担ってきました。また、これまで個別に地域関係者と連携し、イベントなどを通じた地域活性化にも取り組んできました。

2025年1月、三者は改めて千葉ニュータウンエリアの沿線価値に着目し、互いの強みを活かしながら連携を強化し、地域関係者とも協働して、街の魅力向上（リブランディング）や定住促進を積極的に進めていくこととしました。今後は三者が一体となり、地域ならではの体験機会を創出し、千葉ニュータウンらしいライフスタイルの提案に取り組んでいきます。

北総鉄道が鍵の無人受け渡しサービス開始

北総鉄道は駅の立地特性を活かしたお客様サービスの一環として、Keeyls（株）が提供する鍵の無人受け渡しサービス「KEY STATION」を、千葉県内の鉄道駅では初めて千葉ニュータウン中央駅構内に設置し、2024年6月よりサービスを開始しました。

「KEY STATION」は、2017年のサービス開始以来、駅やコンビニ、マンション、宿泊施設など全国162か所に設置されてきました。今回の導入により、北総鉄道では、多くのお客様の動線上にある「駅」という場所を活用し、駅を利用するお客様や、駅周辺にお住まいの方、働く方にとって、鍵の受け渡しに関する時間や場所の制約を解消することを目指します。これにより、周辺エリアの活性化とさらなる利便性向上につなげていきます。

設置場所となる千葉ニュータウン中央駅周辺には、住宅地やショッピングモールなどの商業施設に加え、IT企業も進出していることから、家事代行サービスでの利用のほか、オフィスやテナントでの活用も期待されています。



北総鉄道×白井市 ウマ娘コラボ

北総鉄道と白井市は、2024年10月より、(株)Cygamesの協力のもと、通算2,300万ダウンロードを突破した大人気クロスメディアコンテンツ『ウマ娘 プリティーダービー』（以下「ウマ娘」）とのコラボレーション企画を、北総線の西白井駅及び白井市内にて実施しました。

白井市には、西白井駅から徒歩約20分の場所に、日本中央競馬会（JRA）の騎手や厩務員を養成する「JRA競馬学校」が立地しています。白井市と北総鉄道は、2021年3月に締結した「白井駅・西白井駅周辺地域の活性化に関する協定」に基づき、2022年3月から西白井駅に「梨も騎手も育つ街」という副駅名称を導入しています。今回のウマ娘との取り組みも、この協定に基づく地域活性化施策の一環として実施されるものです。

この取り組みは、西白井駅に足を運んでいただくきっかけをつくるとともに、幅広い世代に親しまれているウマ娘を通じて、地域全体で楽しめる場を提供し、白井市の魅力を多くの方に体感していただくことを目的としています。



© Cygames, Inc.

「熱中症対策標語コンテスト」を実施

北総鉄道では2024年6月、大塚製薬（株）及び沿線自治体である印西市、白井市と協力し、夏の熱中症対策の推進活動として、「熱中症対策標語コンテスト」を実施しました。厳正なる審査の結果、応募総数174作品の中から24名の方の作品が優秀作品として選ばれ、北総線の車両内や一部の駅で、受賞作品を掲載したポスターを掲出しました。

北総鉄道では、地域社会と連携し、熱中症対策活動を実施することで、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献していきます。



日々の暮らし

子育てしやすい環境の整備

京成グループでは、沿線の駅周辺や高架下に保育所を開設しています。今後も、子育てのしやすい環境を整備するとともに、より便利で住みやすい沿線を目指して駅周辺や高架下を中心とした開発を推進し、沿線価値の向上を図っていきます。



千住大橋駅クローバー保育園

● 子育て応援バスを運行

ちばグリーンバスでは、佐倉市制70周年の記念行事の一環として、同社が協力している「佐倉市WEラブ赤ちゃんプロジェクト」の推進も兼ね、子育て応援バス（フルラッピングバス）の運行を2024年11月より開始しました。

お子様から大人の方まで大変ご好評をいただき、「運行を楽しみにしています!」とのたくさんのお声が寄せられました。これからは安全・安心なバス輸送サービスを提供するとともに、「佐倉市WEラブ赤ちゃんプロジェクト」を沿線地域と協力し、「赤ちゃん、ママ、パパ、みんなの笑顔があふれるまち佐倉」をテーマに、便利な路線網を構築していきます。



子育て応援バス

● 京成きッズアカデミーを開催

京成グループでは、2025年7月、8月の夏休み期間に合わせ、小学生を対象とした職業体験型学習プログラム「京成きッズアカデミー2025」を開催しました。「京成きッズアカデミー」



「京成きッズアカデミー」の様子



は、小学生のお子様に京成グループのさまざまな業種の仕事を体験・見学していただき、生活に身近な事業への理解を促進する地域交流活動の一環として2015年より開催しています。

今回は京成グループ17社が、鉄道の駅やバス・タクシーの営業所、ホテル、百貨店、コンビニエンスストア、パン屋、自動車教習所などで、親子で楽しみながら学べる企画を開催しました。

産学連携

文化・観光の振興、教育・研究の振興などにより、地域社会の発展に貢献することを目的として、企画や商品開発、沿線の魅力発信をテーマとした授業等、グループ各社と地域の大学による産学連携を行っています。

2024年9月には、「大学コンソーシアム市川産官学連携プラットフォーム」が主催し、参画している大学の学生を対象とした「市川学」に協力しました。当授業では、市川市と京成グループの関わりについて、当社社員による講義を実施しました。また、「北総鉄道施設見学ツアー」も実施し、大町駅・新鎌ヶ谷駅及びカスタマーセンターを見学後、学生同士のグループワークや北総鉄道社員との意見交換を行いました。学生によるプレゼンテーションでは、北総鉄道エリアにおける地域活性化や観光振興に関する取り組みについて発表していただきました。また、2024年度は新たに関東鉄道と麗澤大学が包括協定を締結し、事業エリアの魅力向上に資する活動に共同で取り組みます。



京成電鉄社員による「市川学」の講義

地産地消の取り組み

京成グループの百貨店、スーパーマーケットやホテルでは、千葉県・茨城県等の地元で生産された商品を地元で消費していただく、「地産地消」に取り組んでいます。また、鉄道や高速バスを活用して野菜や鮮魚などを運ぶ「貨客混載」も行っています。



日々の暮らし

事業を通じた社会課題解決への貢献

当社及び京成不動産では、空き家の増加を食い止め、まちを活性化させるため、沿線自治体と連携して、空き家対策セミナーの開催等に取り組んでいます。葛飾区や八千代市では、複数の物件を新築の賃貸住宅等に再生しています。



また、京成ストアでは、移動スーパー「とくし丸」を営業しており、お買い物に不便を抱える方々に食品等を販売するとともに、高齢者見守り活動の役割も果たしています。

スポーツチームとの連携

京成グループでは、さまざまなスポーツチームとの連携を通じ、沿線地域の賑わい創出や更なる活性化に貢献しています。

● 野球

当社では、千葉ロッテマリーンズに協賛し、ZOZOマリンスタジアムにおいて「京成グループ花火ナイター」を毎年開催し、地域のみなさまをご招待して試合を観戦していただくとともに、試合前には球場ならではの企画を実施しています。

2025年3月からは、千葉ロッテマリーンズで装飾されたラッピング電車「京成線マリーンズ号」を運行しています。車体側面に全8選手がデザインされている他、2025年のチームスローガン「その全ては、勝つために。」で車内が埋め尽くされ、車両1編成が千葉ロッテマリーンズ一色となりました。



また、東北楽天イーグルスとは、冠試合を行っているほか、2025年シーズンにおいて同チームに所属する、則本昂大選手を起用した各種コラボ企画を実施しています。楽天モバイルパー

ク宮城のスタジアム正面広場に「京成電鉄スカイライナー イーグルスキッズステーション」を設置し、則本選手が登板するホーム一軍公式戦の日には、観戦チケットをお持ちいただいた中学生以下のお子様オリジナルベースボールカードをプレゼントします。

● バスケットボール

京成グループは、バスケットボールB.LEAGUEに所属する千葉ジェッツ、アルティエリ千葉、茨城ロボッツを応援しています。協賛試合当日にご来場されたお客様には、京成グループの施設でご利用いただけるお得なクーポンを配布するほか、抽選で京成グループの賞品が当たるキャンペーンを実施するなど、観戦の場をさらに盛り上げています。

● サッカー

当社は2024年に、葛飾区を本拠地とし、『キャプテン翼』原作者の高橋陽一氏が代表取締役を務めるサッカークラブ「南葛SC」とパートナー契約を締結しました。南葛SCは、京成本線・青砥駅が最寄りの「奥戸総合スポーツセンター」をホームスタジアムとし、『キャプテン翼』の主人公・大空翼が所属するチームと同名のクラブです。



また葛飾区における地域貢献とサッカー振興を目的に、南葛SCと連携し、両社のロゴ入りオリジナルサッカーボールを区内の小学校など52校に寄贈しました。2024年12月には贈呈式が行われ、式の後は、南葛SC主催の小学生向けサッカー教室「翼DREAM」も開催され、地域との交流を深めました。

日々の暮らし

■エコロジカルなまちづくりの推進

TCFD提言に基づく開示

京成グループは、温暖化や気候変動など、地球環境が脅かされている状況の中、「京成グループ理念」に定められたグループ行動指針における「環境」のもと、気候変動を私たち自身の問題としてとらえ、常に自然環境との調和に配慮し、行動しています。当社では2022年7月に、「TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）提言」への賛同を表明し、TCFDの枠組みを踏まえた情報開示に取り組んでいます。

ガバナンス・リスク管理

京成グループでは、法令等の遵守を確実なものとするとともに、事業継続に重大な影響を及ぼす可能性を有するリスクに組織的な対応を図ることを目的として、常勤取締役等で構成され、社長を委員長とするコンプライアンス・リスク管理委員会を当社において設置しています。コンプライアンス・リスク管理委員会では、内部監査計画並びにリスク対応に関する審議や実施結果の報告等を行っています。同委員会では、気候変動がもたらすリスク・機会についても評価し、リスク対応に向け審議しています。

戦略

京成グループの中核事業である当社の鉄道事業では、気候変動の観点から、事業継続に影響をもたらすリスク・機会を洗い出し、評価しています。鉄道事業は長期的な観点から事業運営を行う必要があるため、気候変動進行シナリオ（4℃シナリオ）と脱炭素実現シナリオ（2℃未満シナリオ）をもとにシナリオ分析を行い、2050年時点の将来のリスクや機会の影響度を評価しています。

指標・目標

京成グループは、地球環境に比較的優しい鉄道を中心とした事業を運営していますが、気候変動がもたらす様々な影響を鑑み、グループ全体で地球温暖化の原因となる二酸化炭素（CO₂）排出量の削減目標を以下の通り設定致しました。今後もエネルギー使用量の効率化を図り、カーボンニュートラル実現に貢献することを目指します。

京成グループCO₂排出量削減目標 2030年度までに2013年度比46%削減を目指します。
2050年度までに実質「ゼロ」（=カーボンニュートラル）を目指します。

※対象：2022年10月1日現在の当社及び連結子会社のScope1+Scope2

京成グループCO₂排出量実績と目標



リスクと機会

分類	影響度の大きいリスク・機会	リスク・機会の内容	影響度 (2050年)	発現時期	リスク低減・機会活用に向けた取り組み
物理リスク (4℃シナリオ参照)	異常気象による施設・設備・運行への影響	気候変動による異常気象の増大により、施設・設備が損壊し、運行が停止。	大	短期	・自然災害に強い鉄道施設の整備 ・沿線等の観光資源の魅力を伝えるための、積極的な情報発信
	異常気象増加による外出機会の減少	猛暑や豪雨等の異常気象により、外出する機会が減り、鉄道の旅客需要が減少。	中	長期	
	観光資源毀損による外出機会の減少	気温上昇等により、国内外の観光資源の質が低下し、空港へのアクセスを含む鉄道の旅客需要が減少。	中	長期	
移行リスク (2℃未満シナリオ参照)	温室効果ガス排出規制の強化	炭素税等のカーボンプライシングの導入・強化や、再エネ賦課金の単価上昇等により、財務負担が増加。	中	中期	・より環境性能に優れた、鉄道車両をはじめとする設備や機器の導入 ・適切な導入時期・価格を見据えた設備更新 ・グループ会社との共同発注によるコストの抑制
	次世代技術への対応	環境負荷が低い車両の導入、駅へのソーラーパネル設置等の環境負荷低減に向けた設備の導入に伴うコストが発生。	中	中期	
機会 (両方のシナリオ参照)	環境優位性が高い鉄道の利用者の増加	環境意識の向上に伴い、大量輸送が可能で環境優位性が高い鉄道を、積極的に利用する利用者が増加。	中	短期	・鉄道の環境優位性について、利用者へ積極的な情報発信 ・環境負荷が少なくエネルギー効率が高い技術の活用を推進 ・環境への取り組みについて、投資家へ積極的な情報発信
	グリーンエネルギー技術の普及	燃料電池・蓄電池等のグリーンエネルギー技術の普及により、エネルギーコスト等が低下。	中	中期	
	投資家からのESG評価の向上	先進的な気候変動対応により、ESG投資における評価が向上。	中	短期	

※ 短期：～3年 中期：3年～10年 長期：10年～

日々の暮らし

▶ 各交通サービスの車両における環境性能の向上

新形式車両「3200形」導入

当社は2025年2月、新形式車両「3200形」の営業運転を開始しました。本車両は『人や環境にやさしいフレキシブルな車両』をコンセプトに、輸送需要に応じて編成両数を柔軟に変更できる設計とし、効率的な走行エネルギーの使用による環境負荷低減を実現します。



外観デザインは、当社の伝統である赤と青のカラーリングを踏襲し、長く親しんでいただけのデザインとしました。また、連結運転時に常時通り抜けが可能な構造とするため、正面貫通扉を中央に配置しています。車内設備では、当社として初めて車内非常通話装置と防犯カメラを連動させ、緊急時に乗務員が迅速に対応できる体制を整備しました。さらに、各車両に車いすスペースまたはフリースペースを設置し、バリアフリーにも配慮しています。また、最新の半導体を使用したSiC-VVVF制御装置を搭載することで、当社3500形車両と比較して電力消費量を約69%削減し、環境に配慮した次世代車両として、安全性・快適性・省エネルギー性を高いレベルで実現しています。

環境にやさしい「EVバス・タクシー」を運行

京成バスは、最新型EV大型路線バス「エルガEV」（いすゞ自動車製）2両を金町営業所に導入し、2025年3月より葛飾区内の路線で運行を開始しました。「エルガEV」は、走行時にCO₂などの温室効果ガスを排出しないほか、騒音や振動が小さいというEV車両ならではの特性を備えています。さらに、車内は段差のないフルフラット仕様で、高齢者や車いす利用者にも配慮したバリアフリー設計により、快適性を高めています。



その他のバス会社でも、EV・FCVバス計26両を導入したほか、帝都自動車交通ではEVタクシーを10両導入しました。京成グループでは、政府が掲げる「2050年カーボンニュートラル」の実現に向け、引き続き脱炭素社会の実現に資する環境配慮型車両の導入を推進していきます。

▶ サステナビリティに配慮した施設・商品・サービスの企画

再生可能エネルギー由来の環境価値の活用

当社では、2023年4月より、再生可能エネルギー由来の環境価値を活用することで、スカイライナーの運行に係るCO₂排出量実質ゼロを実現しています。



これは、運行に係る電力相当について、東京電力エナジーパートナー（株）の電力供給プランを使用し、京成電鉄ちはら台太陽光発電所を含む千葉県内の再生可能エネルギー由来のトラッキング付FIT非化石証書を用いることで、スカイライナーの運行に係るCO₂排出量を実質ゼロとするものです。

また、ユアエルム京成では、より一層のCO₂排出量の削減に向けて、2024年4月よりユアエルム成田店において再生可能エネルギー由来の電力を導入しています。

※トラッキング付FIT非化石証書とは、固定買取価格制度（FIT制度）の適用を受けた電源の発電量から環境価値を取り出して証書化したものに、特定の電源種（再生可能エネルギー）や発電所所在地などの付加価値的な属性情報を紐づけたものです。

青砥駅を環境に配慮した駅にリニューアル

当社は、2025年3月に青砥駅を環境に配慮した駅としてリニューアルしました。

青砥駅ホーム上家に1,597.5m²の太陽光パネルを設置し、駅構内の電力の約20%を賄うことで年間約73tのCO₂を削減。また、青砥変電所に回生電力吸収装置を設置し、年間約557tのCO₂削減が見込まれます。展示PRスペース及び改札内天井に間伐材・古材を活用するほか、公共広場に面した地上入口に壁面緑化を実施し、気温上昇を抑え、空気の浄化の促進を図っています。



太陽光発電・照明設備の取り組み

京成電鉄ちはら台太陽光発電所や開発本部（京成くぬぎ山ビル）屋上・青砥駅屋上・高砂乗務区屋上、京成バスの営業所屋上・バス停留所、リブレ京成アルビス前原店や堀切店屋根上に太陽光発電システムを設置しています。発電した電力はスカイライナーの運行のほか、営業所や店舗等で使用しており、CO₂排出量を削減しています。なお、京成グループ各施設では電力消費量の少ないLED照明の導入も進めています。



日々の暮らし

環境にやさしい接客制服にリニューアル

関東鉄道、関鉄観光バスでは、2024年5月より鉄道現業員、自動車現業員の接客制服(夏用ボタンダウンシャツ)をリニューアルしました。

新しいボタンダウンシャツは、汗をかきやすい夏季期間に従業員が安心して職務に精励できるよう、抗ウイルス・抗菌加工を施したほか、自然環境への負荷を考慮し、納品時の包装を簡素化しています。従来の包装に使用されていたプラスチックの一部について型崩れしない最低限の紙資材に変更することで、プラスチック量を従来に比べ93%削減しています。



ゴミの削減・リサイクル

京成グループ各社では、ペーパーレス化の推進や食品トレーの回収等によりゴミの削減に努めているほか、駅やバス停のベンチにおける環境に優しい素材の利用、食品提供時における脱プラスチックの取り組み等を通じて環境負荷の軽減を図っています。

また、廃棄予定の京成グループ社員の使用済み制服を活用した繊維リサイクルボード「PANECO®」を(株)ワークスタジオと製作しました。「PANECO®」は、繊維を美しく再資源化(デザイン+リサイクルでアップサイクル)した革新的で環境に配慮したサステナブルなリサイクル素材です。2025年3月にリニューアルした青砥駅コンコース階段改札前のベンチのほか、分譲マンションやホテルの共用部に設置するテーブルに活用しました。

そのほか、建築工事や車両の更新時に生じる廃材、使用済みの乗車券やカイロ等を回収し、事務用品やグッズ等を作成するなどのリサイクルに取り組んでいます。



地域のみなさまとの取り組み

食品等の寄付の取り組みとして、水戸京成百貨店では、NPO法人「フードバンク茨城」の「きずなBOX」を館内に設置することで、お客様から寄付いただいた食品を児童養護施設等に無償で届ける活動を支援しています。また、コミュニティ京成が運営する「ファミリーマート京成八幡駅前店」及び「ファミリーマート市川妙典駅前店」では、「ファミマフードドライブ」を実施しており、ご家庭にある食べきれない食品を市川市を通じて支援が必要な方に提供しています。



その他、市川市八幡地区(当社京成八幡駅、東日本旅客鉄道(株)本八幡駅、東京都交通局本八幡駅)の鉄道3社局とNPO法人「フリースタイル市川」が協力で食品や本の寄贈を募る「フードドライブ&ブックドライブ」を実施し、地域のみなさまから寄せられた食べ物と本を子ども食堂や図書館へ寄贈しました。

廃棄ロスや食品ロス削減を目指した取り組みとして、京成リテーリングネットでは、地域の企業と連携し廃棄される農産物を使用した加工品を開発・販売しているほか、京成ホテルミラマーレでは、京成バラ園芸のいちご狩り施設で収穫されなかった希少品種のいちごを活用したスイーツを期間限定で提供しました。

その他、筑波観光鉄道では、登山道のごみを拾いながら、爽やかな空気の中で筑波山登山を楽しむ「筑波山クリーンハイク」を開催しています。



観光振興

ミッション

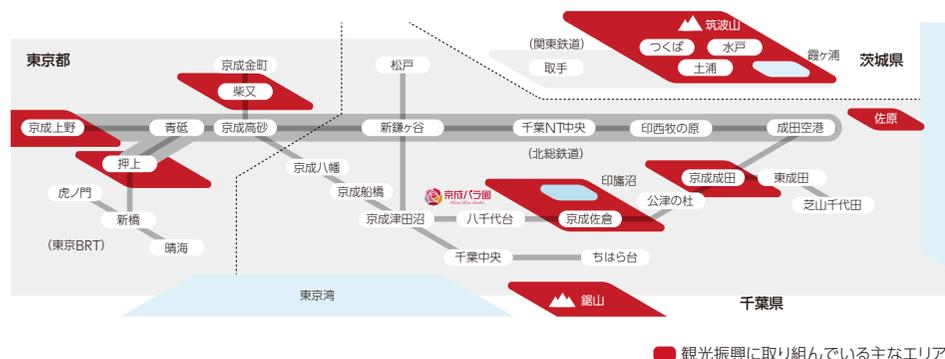
観光地への輸送サービス等の提供者として、事業エリア内での魅力ある旅の機会を提供し、地域社会の活性化に貢献する。

重点施策



具体的な取り組み

京成グループの事業エリアには観光資源が点在していること、そして訪日外国人の中長期的な増加が見込まれることから、運輸業及びレジャー・サービス業を中心に、さらなる観光振興を目指した施策を実施しています。



▶ 東京都

上野・柴又など、京成沿線の下町エリアの魅力向上や発信のため、地域のみなさまや芸能・アニメといった人気コンテンツとのコラボレーション企画等、社内外のリソースを活用したプロモーションを行っています。

上野エリアのさらなる活性化

京成グループはこれまで上野動物園で高い人気を誇るパンダにちなんださまざまな企画の実施や、京成上野駅手荷物カウンターでのレンタサイクルのサービス提供による観光における利便性向上等、上野エリアの活性化と京成グループのサービス利用者数の増加を図っています。



上野動物園のジャイアントパンダ「リーリー」「シンシン」の中国帰国に合わせ、2024年9月に「ありがとう リーリー・シンシン」記念乗車券を発売しました。記念乗車券は「リーリー」「シンシン」の写真をあしらったデザインで、京成線都内エリアが1日乗り降り自由に使える「下町日和きっぷ」が2枚つくほか、本券の使用後はポストカードとしても利用でき、大変好評を博しました。

葛飾区での地域連携による魅力発信

● 柴又駅

「男はつらいよ」シリーズの舞台・柴又の玄関口である柴又駅の構内に、山田洋次監督と松竹(株)の企画監修のもと、2020年12月から「寅さんのいる柴又」をコンセプトにした駅装飾を展開しています。2024年11月には、劇場公開55周年、当社創立115周年、北総鉄道1期線開業45周年にあたることから、特別デザインの記念乗車券を発売したほか、記念ヘッドマークを掲出した列車を運行しました。さらに、「男はつらいよ」の舞台で、寅さんの故郷である柴又駅・新柴又駅及び柴又帝釈天門前参道等の店舗をめぐるデジタルスタンプラリーを実施しました。



観光振興

● 青砥駅

葛飾区が本社所在地の玩具メーカー(株)タカラトミーの盤ゲーム「人生ゲーム」が発売55周年を迎えたことを記念し、当社は(株)タカラトミー・葛飾区と連携して2023年7月より青砥駅の駅名看板を人生ゲーム仕様に装飾しました。2025年3月には駅前広場に「人生ゲーム」をモチーフにしたベンチ・モニュメントを設置し、広場全体で「人生ゲーム」の世界観を楽しむようリニューアルしました。



青砥駅高架下公共広場

● 四ツ木駅

当社では2019年より国内外で人気を誇るサッカー漫画『キャプテン翼』にちなんだラッピングを行っていましたが、2023年11月からのアニメ放送を記念して駅のラッピングを全面リニューアルしました。また、コラボ記念乗車券やデジタルスタンプラリーの開催、スカイライナー車両をラッピングした「キャプテン翼ライナー」の運行などを行いました。



「キャプテン翼」の世界が広がる四ツ木駅

沿線周遊のイベントを開催

当社は2024年度より、沿線の周遊を目的とし、京成線1日乗車券をセットにした「ナゾ解きた町電車旅」を開催しています。このイベントは、謎解きキットに記された暗号や謎を解き明かしながら、実際に京成線に乗って、さまざまな駅をめぐる体験型のゲームイベントです。謎解きキットには、暗号や謎のほか、沿線の対象店舗で特典が受けられるクーポンも付いています。



イベントのポスター

京成沿線の魅力ある地域を訪れていただきながら、謎を解明していくことで、物語の登場人物になったかのような非日常感をお楽しみいただけます。

京成リッチモンドホテルでの取り組み

当社とロイヤルホールディングス(株)の共同出資により2017年4月に設立したケイ・アンド・アール・ホテルデベロップメントでは、宿泊主体型ホテル「京成リッチモンドホテル」を門前仲町、錦糸町、押上の3か所で営業しています。また、京成タクシーセントラルとともに、京成リッチモンドホテル東京門前仲町での宿泊と、同ホテルから東京ディズニーリゾート®間の片道タクシーチケットがセットになったプランを発売しています。



京成リッチモンドホテル東京門前仲町

▶ 千葉県・茨城県

鉄道・バスともに多数の路線が走っているほか、京成バラ園芸・ホテル施設などのレジャー施設や、成田・鋸山・筑波山などの観光地を有しています。グループ各社やエリアの特徴を活かしながら、複数のグループ会社横断的な企画や、自治体や人気キャラクターとコラボレーションした企画を実施しています。

市川市の芸術文化を発信

当社は2025年3月、市川真間駅駅舎及びホーム上家耐震補強・リニューアル工事を完了しました。同工事に合わせ、当社と市川市は「いちかわ文化施設インフォメーション」を設置しました。

市川市は、多くの文化資源や文化施設があることから、「街かどミュージアム都市づくり」を展開し、京成沿線の市川・真間界隈においても、文化都市としてふさわしい街づくりを進めています。



いちかわ文化施設インフォメーション

観光振興

京成ホテルミラマーレでの取り組み

千葉京成ホテルが運営する京成ホテルミラマーレは千葉市の中心部に位置し、直結する千葉中央駅からは羽田空港へのリムジンバスで発着が可能、東京ディズニーリゾート®への宿泊者専用無料送迎バス「グッドネイバーホテル・シャトル」も利用できるシティホテルです。

鉄道ファンに人気の「京成電鉄3400形トレインルーム」に続き、2025年3月より、当社と新京成電鉄との合併を記念し、鉄道コンセプトルーム「新京成電鉄8800形トレインルーム」宿泊プランを販売しています。この部屋は、新京成電鉄のメモリアルルームとして、営業運転を終了した8800形8805編成の車両部品をアップサイクルし、新京成電鉄全面協力のもと実現しました。



新京成電鉄8800形トレインルーム

京成バラ園での取り組み

京成バラ園芸が運営する京成バラ園は、1,600品種、10,000株のバラが咲き誇る、関東最大級のバラのテーマパークです。春秋のバラのシーズンには、当社及びグループ外の交通機関と便利でおトクな企画乗車券「京成ローズきっぷ」を販売しているほか、バラの新品種や関連商品の開発・造園工事を行っています。

2024年10月には、『Party of Roseful Moment (パーティー オブ ローズフル モーメント) ~マッドハッターのお茶会とアリスのクロッケー~』を開催。全席完売を記録した人気企画、バラと執事のお茶会「リザーブドローズテーブル」が2年振りに復活しました。

鋸山ロープウェイ・筑波観光鉄道での取り組み

南房総にある鋸山ロープウェイは、山頂駅展望台から房総丘陵や東京湾、富士山等を眺望でき、元旦には「初日の出早朝営業」を実施しているほか、千葉県民の日である6月15日には小児運賃を無料で運行するなどさまざまな取り組みを行っています。



マッドハッターのお茶会
~リザーブドローズテーブル~

筑波観光鉄道では、日本百名山の1つ筑波山の山頂付近に至るケーブルカー及びロープウェイ等を運営しており、山上からは関東平野が一望できます。毎年10月~2月の土日祝日を中心に、「ロープウェイスターダストクルージング」を実施し、都心の夜景と星空を楽しんでいただくイベントを開催することで、夜の筑波山観光の魅力向上に努めています。

また、観光庁の訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業費補助金(インバウンド受入環境整備高度化事業)を活用し、多言語での施設・利用案内をはじめ、飲食店等筑波山周辺の包括的な観光案内などの情報発信を行うデジタルサイネージをケーブルカー・ロープウェイの各施設に計4台導入しました。

2024年10月には、台湾の台北大衆捷運股份有限公司(台北メトロ)の運営する猫空ロープウェイと、相互の旅客誘致を促進する目的として友好協定締結書を締結しました。本協定書に基づき、鋸山ロープウェイ、筑波観光鉄道、猫空ロープウェイではロープウェイ事業をはじめ、両社が持つ観光資源の活用や情報発信、プロモーション活動を通じて、日台間の旅客誘致、観光産業の発展に貢献していきます。

筑波山京成ホテルの取り組み

筑波山京成ホテルは、筑波山頂に一番近いホテルとして宿泊プランの充実を図っており、2024年5月、いばらきフラワーパークとのコラボ宿泊プランを販売しました。

関東平野を一望できる温泉と夜景が魅力の同ホテルの宿泊券と県花であるバラが900種以上も楽しめるいばらきフラワーパークの入園券付宿泊プランです。



園内のバラを蒸留して作った、
バラのルームミスト

観光振興

▶ その他

観光バスにおける外部評価

観光バス等の貸切バスを運行している京成グループバス各社及び京成タクシーイーストでは、公益社団法人日本バス協会が運用する「貸切バス事業者安全性評価認定制度」による認定を受けています。

また、京成バスシステムと関鉄観光バスは2024年12月、(株)旅行新聞新社が主催する「第34回プロが選ぶ優良観光バス30選」に選ばれました。両社とも5年連続の入選となりました。

「プロが選ぶ優良観光バス30選」とは毎年1回、全国の旅行会社約14,000か所を対象に、優れていると思われるバス会社の投票を募り、集計・発表する事業です。

シェアサイクルの運営

関東鉄道では、地域住民の利便性と観光利用の回遊性向上・環境負荷軽減を目的に、茨城県土浦市を中心としたシェアサイクルサービス「関鉄Pedal」の運営を2023年3月から開始し、茨城県内をはじめ、千葉県内にもシェアサイクルポートを拡大しています。2024年12月には新たに、守谷駅に近接する関東鉄道社有地内にシェアサイクルポートを導入しました。今後も、モビリティの多様性実現による地域住民のみならず及び観光利用のみならずの利便性向上を目指します。



東京ディズニーリゾート®の高速バスアクセス

京成グループのバス各社では、東京ディズニーリゾート®と日本各地を高速バスでダイレクトに結んでいます。

2024年6月には羽田空港～東京ディズニーリゾート®線、成田空港～東京ディズニーリゾート®線、オリエンタルランドとの連携により、「東京ディズニーシー・ファンタジースプリングスホテル」の開業に合わせた乗り入れを実施しました。



※ 2025年8月1日現在



公共交通の車両や施設を活用した観光コンテンツの提供やPR

京成グループの鉄道・バス・タクシー各社では、事業エリアの自治体や観光協会、教育機関等と連携し、イベント列車の運行等、各地域のリソースと各社の持つリソースを組み合わせた観光コンテンツの創出や再発見に取り組んでいるほか、車両のラッピングや駅施設の活用などによる観光情報のPRを行っています。

